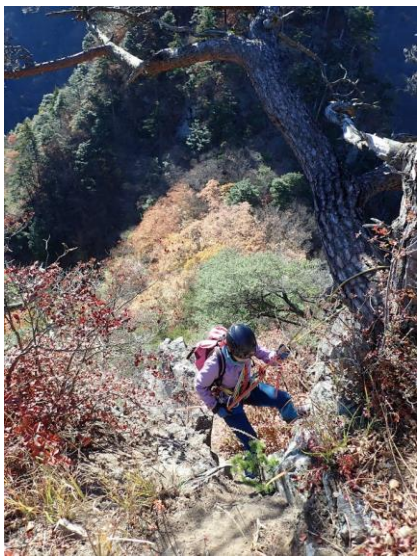
西上州・タカノス岩北稜

２０２１年１１月１３日
メンバー：Ｔ野・Ｔ崎・Ａ原・Ｓ石ｋ

沢登りにはもう冷たいけど山スキーにはまだ早い、こんな季節に定番なのが西上州の岩山である。今年もまた西上州の季節がやってきた。尖がった岩山ばかりで地形が厳しいからか、林業がそれほど盛んではなく、山々のほとんどが広葉樹の天然林となっているので、10月下旬から11月中旬の西上州の山々は見事な錦秋の世界になる。しかも一癖も二癖もある一筋縄ではいかない個性的な山ばかりで、この時期、毎年のように訪れているが、まだまだ飽きることなく課題は減るどころか、行くたびにどんどん山積みされて嬉しい悲鳴なのである。

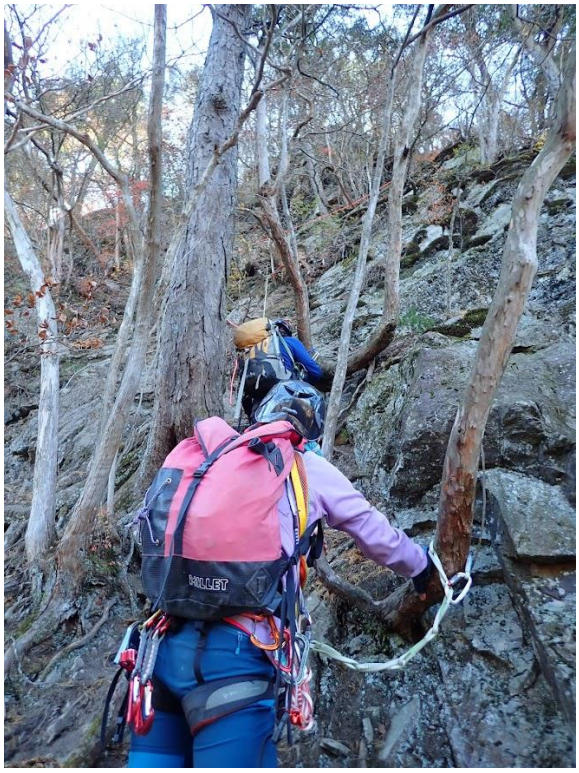
今回計画したのは、西上州の「マッターホルン」と呼ばれる碧岩のすぐ横にミニ碧岩のような様相で聳える岩峰、タカノス岩！！ルートは北稜だ！！西上州でも最も奥まった場所にあり、碧岩・大岩など、特に格好の良い岩峰が集まっていて、難度の高いルートが集中している山域でもある。普通は子供に「山の絵を描いて！！」というと、富士山のような絵を描くのだが、この辺りに住んでいる子供たちに「山の絵を描いて！！」というと、きっといつも見慣れている尖った岩峰の絵を描くのではないかとつい想像してしまうのだ。

■写真上　取付きの渡渉点。



■写真中　Ｐ１にて、後ろに聳えるのがタカノス岩！！
■写真下　Ｐ１の懸垂下降。

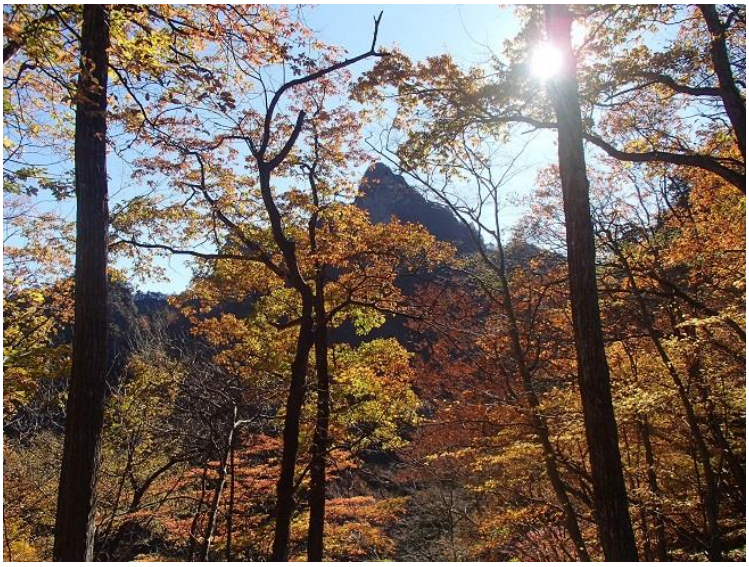
そのくらいどの山も尖っていることから、この辺り一帯の山々は西上州の「ドロミテ」とも呼ばれているらしい。ただ、すっきりとした硬い岩で構成された本場、イタリアの「ドロミテ」と違い、脆い岩とブッシュ、それに泥壁で構成されたこの辺りの岩山を、口の悪いクライマーは西上州の「泥みてぇー」と親しみを込めて呼んでいるという事実もあるようだ。しかし、そういう泥臭いクライミングは、我々沢屋にとってはそれほど不快ではなく、むしろブッシュがある分、高度感からくる恐怖から免れることができ、支点もブッシュで取りやすいので安心して登れ、かえってありがたいと思ってしまうのである。さて、今回のルートはどんなだろうか？　初めてのルートは不安もある



が、それ以上に期待も大きく思わず「グルグル」してしまうのだ。では報告です。

昨晩ＳＢした道の駅「オアシスなんもく」は同じ匂いのする人たち（おそらく沢屋）で賑わっていた。きっと考えることは皆同じなのだろう。今回登るタカノス岩北稜の登山口は碧岩と同じ､｢三段の滝入口｣駐車場である。ここはトイレもある。7:30に準備して出発。少し車道を先に進むと川に降りる赤い鉄の階段があり、それを降りて川を渡渉する。平水であれば飛び石伝いに問題なく渡れる。対岸にはお墓があってその裏の急斜面から登高を開始する。はっきりした踏み跡はないので適当に登るが、ふくらはぎが攣りそうになる急斜面が続く。やがて正面に岩壁が現れるが、ここは基部を右側に巻いて傾斜の緩いところを探して登っていける。これを登ると景色の良い小ピークに出て、これから超えるＰ1・Ｐ2の先にタカノス岩が「ホント登れるのかいな？」と思える険しい山容で聳えている。

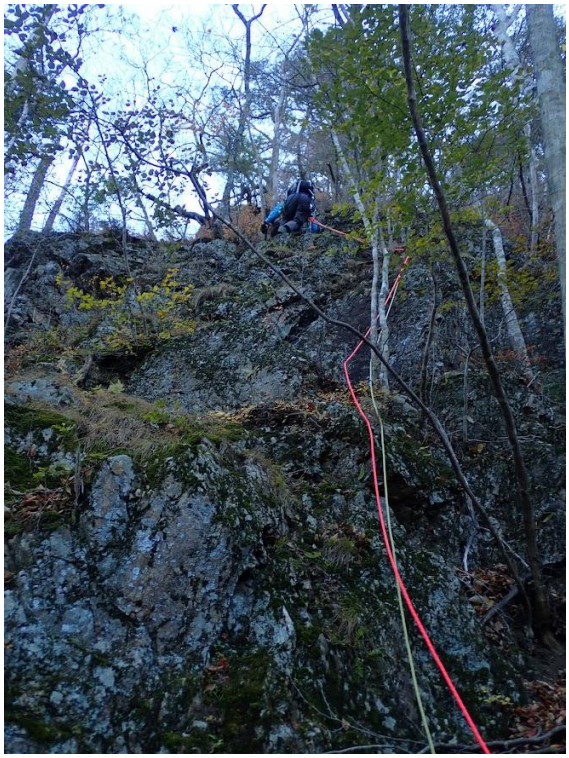
Ｐ1の登りは､下部はブッシュ交じりの傾斜の緩い薮岩壁、上部は左側が切れ落ちた気持ちの良い岩稜で、ロープ使用でＴ崎・Ｔ野が順番にトップで登って行く。すぐ真下に麓の人家が見えて、いかにここが急峻かがよくわかる。Ｐ1も景色の良いピークで碧岩はスクッと立ち上がって格好良く、その下には名瀑「三段の滝」も確認できる。



■写真上　Ｐ２の壁、一応このルートの核心部。
■写真中　立岩（正面）と毛無岩（右奥）。
■写真下　紅葉と碧岩。

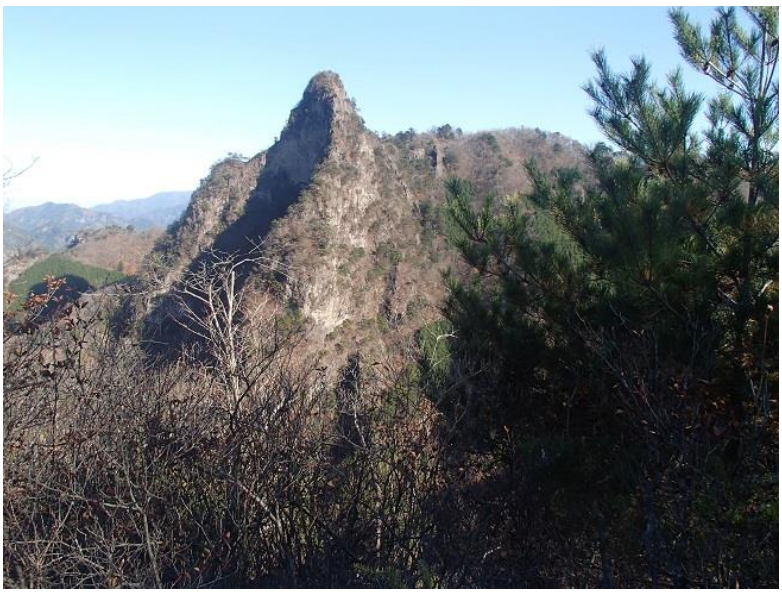
Ｐ1からは懸垂下降で１ピッチ下降して本ルートの核心部、Ｐ2の岩壁に向かう。Ｐ2岩壁はスケールも大きく傾斜も急である。ただ、ブッシュも多いので支点は豊富に取れ、その点は安心感がある。ここもＴ崎・Ｔ野で交代しながらリードしてロープを延ばす。４人なので時間もかかるが安全第一でロープを出すことを惜しまず登る。ブッシュは雪国のそれとは違い、いとも簡単に折れてしまうものもあるので、一つ一つ確認しながら慎重に登る。Ｐ2からの下りはルーファイに注意。ルートを選びながら慎重に下降し､途中から念のため1ピッチ懸垂下降で鞍部に降りて、いよいよ本峰への登りとなる。

本峰の登りは距離は一番長いが、それほ



ど難しくなくロープを出すかどうか悩むところだ。慣れたパーティーならおそらくロープは不要だろう。だが、我々は一部を覗いてほぼロープを出して慎重に登る。上部は高度感があり、西稜を正面にした碧岩の鋭鋒が素晴らしい！！振り返れば立岩や毛無岩などの西上州の個性的な岩峰も負けじとその威容を競っている。さらにそれらの山の奥には浅間山が穏やかに煙をはいていてその姿が何とも対照的だ。山頂着は13:30・・・。知らないうちに時間があっという間に過ぎて気付けば登り始めて6時間が経過していた。山頂から望む碧岩西稜はやはり格好良く、これはいつかはぜひ登りたいルートで、またひとつ課題が増えてしまった。

　さて、あまりのんびりしていられない、さっさと降りよう。嬉しいことに、今までのルートと違って下山ルートは比較的安全なルートで一安心、普通に歩いて順調に下降した。南側の鞍部からは尾根を離れて沢に降りるが踏み跡は確認できないので適当に斜面を降りていく。沢床まで降り、さらに下降すると碧岩へ登る登山道と合流。すぐに名瀑「三段の滝」が現れる。前回、碧岩に登った時に一度見ているので「相変わらず素晴らしいね！！」くらいだが、初見でこの滝を見た人は、その優雅な姿に魅了されるに違いない。右岸を巻きながら降りるが、一段一段が素晴らしく、下から3段で落ちる滝の全容を見ても、またこれがホントに素晴らしいのだ。紅葉の木々が彩りを添えればなおさらで、ここを訪れるなら、この時期が一番のお奨めである。



　ここからは沢沿いの整備された遊歩道を20分も歩けば車をデポした駐車場が見えてきた。15:17駐車場着。山頂からの下りは順調で思いのほか早く降りれて助かった。

■写真上　山頂壁を登る！！
■写真中　格好の良い岩峰、碧岩！！正面の尾根が西稜。
■写真下　タカノス岩山頂！！

　タカノス岩北稜は、我々にとっては適度に緊張するがビビるような恐い場所はなく、ちょうどいいルートであった。ただ、ルーファイを間違えるとドハマリしそうなところもあり、そういう意味では登攀力よりも判断力が重視されるルートであろう。P1・P2・ピークと次々に岩峰を越えてハラハラドキドキしながら縦走気分を味わえる好ルートで、沢

屋のオフシーズンにはお奨めである。

　さて、明日はプチバリ第２弾！！飯士山負欠スラブだ。途中、美味しいものを食べようと慎重に選んで入ったラーメン屋がなんと大ハズレ！！しょっぱいラーメン食べて、湯沢の除雪センターへ。除雪センターは、深夜、警察が乱入してきて「ここで寝てはいけない。」と注意される。今までさんざんお世話になったがこれからは使いづらくなるので気をつけよう。

■コースタイム
三段滝駐車場（7:30）～（8:55）Ｐ１（9:10）～（10:30）Ｐ２（10:40）～（13:30）タカノス岩（14:00）～（14:45）三段の滝～（14:55）～（15:15）三段滝駐車場

■写真上　タカノス岩の下降。
■写真下　三段の滝にて。